

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	ゆっくりとのんびり自然に、あたたかく、笑顔の絶えない生活を支援している。地域の方も気軽に立ち寄ってもらえるホームを目指したい。		地域の中で、しらかばの存在を高めたい。
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	個別ケアをたてる際にも、話し合いの中で常に理念に触れられるようにしている。		理念通り、落ち着いて生活できる場にしたい。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	家族への便りを活用したり、地域のイベントに参加するようにしている。		町内会及び地域住民の交流をより図りたい。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	ホーム周辺の散歩の機会を増やしたり、行きつけの理容室などで交流を深め、近隣の方との挨拶の励行を心がけている。		近隣との交流を更に深めていきたい。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	回覧板の案内等で、町内会の行事を確認し、できるだけ参加するようにしている。		夏祭りや、盆踊りに参加するようにしている。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域主催の研修会があれば、参加機会を設けている。又、気軽に遊びに来て頂けるよう取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		指摘された事については改善されている。
8	<p>運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		より深い知識を身につけたい。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない注意を払い、防止に努めている。</p>		ある程度の法律の知識を身につけたいと思っている。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	気軽に話をできる関係ができていますので、要望や意見、不満等日常的に聞く事が出来る。又、第三者機関への苦情相談等も掲示している。		利用者との意見交換を設ける。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	しらかば新聞を発行、小口金銭の明細等で報告している。		面会の際には、本人の現状を報告、その際に家族の要望も合わせて聞くようにしている。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	可能な限り検討し、反映させる努力をしている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議などで意見を述べている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	必要に応じて柔軟に対応する様努めている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	必要にせまられない限り職員の異動は行っていない。離職者や職員が、利用者へ直に説明し、理解を得られる様努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>外部研修も、内容をよく吟味し、それに合わせて段階的に職員の研修を行っている。</p>	<p>月1度の会議には、テーマを決めて勉強会を行っている。これからもスキルアップの為、研修会に参加できる体制を整えたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>西区管理者会議を通じ、他ホームとの交流や、勉強会等に参加している。</p>	<p>他ホームと個別に、又気軽に交流をできるよう考えていきたいと思っている。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>飲み会や有休等を利用してはもらっているが、十分とは言えない。</p>	<p>有休を有効に使い、ストレスの軽減を図れる体制を整えるリフレッシュ休か、の検討</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>勤務状態を把握し、各自が向上心をもって働ける様研修等参加できる様にしている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>今までの生活環境を理解し、困っている事、不安な事、求めている事を、本人から十分に聞く様心がけている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>じっくりと時間をかけて聞くようにしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人と家族のまず最初に必要な支援は何かを具体的に確認する。		より、きめ細やかな対応ができる様取り組んでいきたい。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	まず見学から始め、ホームの雰囲気を見てもらい、少しずつ慣れてもらい、他利用者との関係を作り、コミュニケーションをとってもらう。		ホームの型にとらわれず、個別サービスの徹底。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	介護する側、される側と言う立場ではなく、一緒に生活している者同士、楽しい事、嬉しい事、哀しい事を共有する関係を築いている。		場合によっては、互いに悩み事を相談する事も有る。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族、本人、グループホーム職員は、三位一体となって支えあう関係を築いている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人と、家族との良い関係を保てる様、相手の事情を十分に理解するようにしている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人の要望があれば、馴染みの場所や、人に会う用意はしている。又、連絡等も間に入り取り合っている。		以前に住んでいた場所等には車でドライブ中立ち寄りしたりしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	常日頃利用者一人ひとりに声を掛け、心配事、不安がないか把握している。		中立的な立場で、両者間のクッションになれる様努力したい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去された後も、相談や、苦情を共有し、コミュニケーションをとっている。		退去後も都合がつけば利用者も含め面会の機会を作りたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の望んでいる事、こうしたいと思う気持ちを、会話、表情によって把握できるよう努めている。		本音の言える、相談しやすい環境と関係作りに取り組んでいる。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人及び、家族よりなるべく詳しく情報を得て、把握に努めている。		日常会話の中から、少しずつでも情報収集できるようコミュニケーションを重視したい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	各職員は、早・日・遅・夜勤等の勤務につきその時間の状況を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族の意見、要望を十分に聞き入れて、ケアマネージャー、職員全員の意見や、気付きを取り入れ十分な話し合いを基に作成している。		出来る限り家族、本人の意見を取り入れたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ケアマネージャーが中心になり、きめ細かいモニタリングを積み重ね、現状に適したケアプランを作成している。		モニタリング、評価は変化があった時などは、その都度記入している。
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やけあの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	担当者会議、申し送りなどで、気付きや意見を出し合っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人、家族の希望や状況に応じて、通院介助や、送迎等、臨機応変にサービス提供できるよう取り組んでいる。		定期的な受診の送迎・介助に対応している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議を通して、町内会民生委員に参加してもらい意見交換している。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	ボランティアを有効に利用し、利用者のニーズに答えられる様活動している。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	本人の希望や、必要性に応じて、支援センターと相談したり、成年後見制度についても支援する用意がある。		より一層、支援センターと協働していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	契約医院による定期的な往診と、週一回の訪問看護師によるバイタルチェックが行われ、利用者の健康管理を行っている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力医院の医師の紹介により、必要な医療機関や、専門医の治療を受けられる様支援している。		職員が、より認知症に対しての理解を深められる様、研修を充実させていきたい。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所としての看護師は配慮していないが、医療連携による看護師と、健康管理や医療活用を支援している。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	利用者が入院した時は、既往歴などの情報を速やかに入院先に提出し、入院先と情報を密にとり、早期退院できるよう連携している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化、終末期のありかたについては、利用者の状態、状況に応じて医師・家族と十分に話し合い検討している。		主治医や家族と、ホームの連携体制を、より充実したものにしていきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	かかりつけ医師と連携を図り、できること、出来ないことを見極め、チームで今後の変化に備えて検討している。		研修や勉強会があれば、参加して、終末期の対応を研究していきたい。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	関係者と十分な話し合いをもち、本人にとって何が一番不安かを見極め、取り扱うよう支援している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	プライバシーの確保、個人情報の管理は徹底に行う。		研修会の課題にし、スタッフ間で話し合う機会をもった。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	利用者のサインを見逃さないよう、日々観察を重視している。		
52 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者のニーズになるべく答えられる様、希望があれば随時買い物・散歩を行っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	理美容は、本人の希望があれば、職員と一緒に出かけている。		
54 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	食事の準備、片付け等一緒に行い、好みの味付けなど別に提供している。		メニューにこだわらず、好きなもの・食べたいものがあれば、本人が買って食べる事の出来る環境を作っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人が希望すれば、一緒に買い物に行き、寝るように支援している。		買い物に行きたいけど、言えない等ないよう声掛けをする。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	声かけにより、習慣をつけてもらい、排泄の失敗を減らしている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	体調に配慮し、本人の希望に沿うよう入浴していただいている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	生活習慣に合わせ、各自就寝時間に休んでもらっている。眠れないときは、スタッフが話し相手になり、安心して就寝出来る様努めている。		本人の生活リズムを大切にする。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	各自の趣味が継続できる様、物品を用意、食事作り・清掃・洗濯物たたみなど、一人ひとりの力を生かし生活していただいている。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人ひとりの能力に応じて、使用できる様支援し、職員もお金を持つことの大切さを理解している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	外出は、本人の希望に沿って行っている。散歩等は、声掛けで出かけている。		遠出の希望にも対応していきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみない普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ホームの車を使い、公共施設・外食等行っている。		付き添いの活用を検討
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	本人から希望があれば、ホーム内から電話で家族への取り次ぎをしたり、手紙のやり取りを支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも気軽に面会に来てもらえるよう、アットホームな雰囲気を保つように気をつけている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。申し送りや、カンファレンスの中で話し合っている。		危険防止が身体拘束にあたらないよう工夫している。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室や玄関は、日中は鍵はかけない。気軽に外出したり、訪問したりしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>利用者の安全確認</p> <p>67 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>日中は自由に過ごしてもらい、プライバシーに配慮しながら安全を確保している。夜間は定期的に巡回して確認している。</p>		<p>監視されているという感じを受けさせず常時見守りを行っている。</p>
<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>68 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>昼と夜の置き場所を変えている。利用者によって分かり易く説明している。又、理解もしてもらっている。</p>		<p>夜間は、目の届かない所があるので、包丁等は別の場所に収納している。</p>
<p>事故防止のための取り組み</p> <p>69 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>モニタリング、サービス担当者会議等で話し合っている。</p>		
<p>急変や自己発生時の備え</p> <p>70 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>主治医との連絡を密にし、緊急連絡網を設け対処している。</p>		<p>全ての職員が応急手当の講習を受けたい。</p>
<p>災害対策</p> <p>71 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>定期的な避難訓練を行っている。</p>		<p>地域との交流を深め、災害時には協力が得られる様はたらきかけていきたい。</p>
<p>リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>72 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>ケアプランの更新時や、面会の際に、家族と対応策を話し合っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>異変が見られた時は、契約医と連絡を取り、24時間対応をしている。職員同士も情報を共有している。</p>	<p>体調の変化は、申し送りの時詳細にするようにしている。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>契約医の往診の際は、薬の効用・目的・副作用等を確認する。又、変更の際は、医師に用途を詳しく説明してもらい、理解している。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>便秘の原因や、及ぼす影響を理解し、医師の意見を聞き、予防と対策を検討している。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>食後は、見守り・及び介助にて、口腔ケアを行っている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの状態に応じて、食事は調整している。又、水分は多く摂れる様、一人ひとりの一日分の水分量をチェックしている。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症マニュアルがあり、申し送り等で確認している</p>	<p>新型インフルエンザに対しても、もう少し詳しい情報を収集したい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所、調理器具は、清潔を保ち、食材は新鮮なものを使う様心がけている。		まな板。フキン等は、漂白剤にて毎日殺菌している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りは、広くとれるようあまり物を置かないようにしている。又、小さな花壇ではあるが、季節の花を植えている。安心して出入りができるように工夫している。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間は、できるだけ広く使える様工夫している。居間・食堂は、明るく、日中は太陽の光が射す空間になっている。メインの壁は手作りの季節感のある造形物を貼っている。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂・居間のほかに、一階の広場には、リハビリ用の平行棒があり、気軽に使用できる。又、ソファテーブル・椅子等が置いてあり、多目的に使用できる		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室そのものは2あまり広くないので、できるだけ広く使える様工夫し、馴染みのものを置くよう配慮している。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	空調は各々居室に換気扇を取り付けてある。又、こまめに換気するようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

サービスの実績に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>個々の要望を取り入れて、小人数制の利点を生かし対応している。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>ゲームをしたり、散歩をしたり、体操をしたり、料理を作ったり、その中で会話を楽しんでいる</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>居室にて生活される方、居間にて生活される方、一人ひとりのペースで過ごされている。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>外出の予定及び、計画をされ、それが実行できた時。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>希望に応じ、可能な限り出かけている。当日の天候も考慮して、又、遠方の場合には予め計画を立てて実行している。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>月2回の主治医による往診や、週一回の看護師の訪問、夜間も主治医による24時間対応の医療連携をとっている。</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>主治医の紹介により、専門医療もその時の状況に合わせて柔軟な対応をしている。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない</p> <p>面会時等、話し合う時間を設けるようにしている。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>以前勤務していた馴染みの元職員も、気軽に訪問して、旧交を温めている</p>



サービスの成果に関する項目		取り組みの成果	
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	町内会を通じて、祭りの参加や、グループホームについて、町内会の集まり等で説明してもらっているが、まだまだ働きかけが足りないと思っている。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	まだ未熟ではあるが、当グループホームの理念に沿ったケアができるよう、前向きに働いている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	概ね満足しているが、要望が重なる事もあり、思い通り応じられない。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	外部評価のアンケートからも、概ね満足していると感じられる。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

利用者一人ひとりの希望・要望等にできる限り対応したいと思っているが、まだまだ充分でない。天気の良い日は希望があれば気軽に外出したり、散歩に、買物に行くようにしている。